



8月号よりスタートした連載コーナー「創り人からのメッセージ」は、今号の同コーナーで取材した玉城絵美さんのボディシェアリングのご研究に私が感銘を受けたことがきっかけで誕生しました。そんな背景もあって、いつもとは違う緊張感で取材に臨みました。初めて直接お目にかかった玉城さんは、凜とした佇まいからは想像していなかった、とても気さくな方で、和やかな雰囲気取材を進めることができました。インタビュー後、「ポーズハンド」を体験させていただいたのですが、「最初は弱めの電流を流しますね」と言いながら、玉城さんがパソコンのキーを押した瞬間、強い電気刺激が加わり、思わず「オウ」と声を漏らす私（写真）。「あ、ごめんなさい。強めの流しちゃいました」と笑顔の玉城さん。自分の意思とは関係なく中指が動いたことへの驚きと玉城さんの茶目っ気に、まんまとやられた(?)のでした。（柏木）

VIEWnext公式アカウント

LINE@

友だち募集中!



『VIEW next』のLINEを友だち登録していただければ、本誌の発刊時や新コンテンツの公開時に通知が届き、ウェブサイト『VIEW next ONLINE』内の該当記事に、ダイレクトにアクセスできます。この機会にぜひ、友だち登録をお願いします!

【友だち登録の方法】上の2次元コードを読み取っていただくか、LINEアプリの「友だち追加」>「ID検索」で「@view21」とご入力いただき、追加してください。

VIEWnext

高校版 2024年2月号

2月15日発刊

(予定)

『VIEW next』高校版は  
年6回の発刊です。

## Reader's VIEW

先生方からのご意見を  
紹介します

2023年10月号へのご意見

## 2025年度大学入試に向けて、読解力の育成が必要

2025年度大学入学共通テストについては、これまで「情報Ⅰ」や「数学Ⅱ・B・C」ばかりに目が向いていたが、10月号の特集には、地理歴史・公民についても指導の留意点などがしっかりとまとまっており、勉強になった。また、特集内の「2025年度大学入試に向けた進路指導のポイント」の記事で、「どの教科においても読解力がますます重要に」との記載があり、やはり国語や英語のみならず、全教科を挙げて読解力の育成にしっかり取り組んでいかなばならないと、強く再認識した。

栃木県立今市高校 半田高史

## 自分の指導を振り返り、生徒指導の難しさも感じた

10月号の「先生なら、どうしますか?」の記事を読み、私なら「よかった」と思うところで、鳥取県立鳥取東高校の福島卓也先生は「怖くなりました」と書かれていたのが印象的だった。自分の指導の振り返りになるとともに、生徒指導の難しさの一端を感じることができ、とてもよかった。

山形県 匿名希望

## 「まずは教師が探究学習を楽しむ」姿勢に共感

10月号の「探究学習 伴走する教師たち」の記事を読み、東京都・私立多摩大学附属聖ヶ丘中学高校の出岡由宇先生の「まずは教師が探究学習を楽しむ」という姿勢に共感した。私も前任校では、地域にかかわる探究学習をつくり上げるために、まずは私自身が地域の方々につながることから始めた。その経験によって、自分の視野が広がり、経験値も高まり、何より人間性が深まったと感じている。文字や映像で知識・技能を得ることはできるが、非認知能力は他者との触れ合いによって高まると実感している。

群馬県立前橋西高校 田崎 潤

## 学校全体での進路指導の取り組みを提起したい

10月号の北海道・私立札幌新陽高校の「生徒の可能性を引き出す 新進路選択支援」の記事を読み、3学年を通じて体系的に進路指導を行うことで、目的意識を持って自分の進路を選択する生徒を増やすことが、まさにこれから行いたいことだと感じた。本校では、進路指導の進め方は各学年に任されている。そのよさがある一方で、学年ごとに大学入試に向けた指導のノウハウなどを構築していく必要があり、大変な部分もある。今回の記事も参考にしながら、学校全体でこういった取り組みをしていけばよいのかを提起していきたいと思う。

香川県・私立大手前丸亀中学・高校 高畑雅史

## 業務分析シートを校内で共有し、一緒に考えたい

10月号の「追跡! 働き方改革」愛媛県立松山南高校編の記事に掲載されていた、量的な負担感ではなく、質的な負担感に注目した業務削減の実践提案は今までになく、興味深く読んだ。また、負担感のある業務を見える化し、共有するための業務分析シートを、早速ダウンロードした。自分の立場では校内研修を開くことは難しいが、ほかの教師と業務分析シートを共有し、業務の質的改善について一緒に考えたいと思った。

静岡県立静岡東高校 山梨達也